

競 技 注 意 事 項

- 1 本大会は、2025年度財日本陸上競技連盟競技規則および本大会申し合わせ事項によって実施するとともに、児童である年齢を考慮した教育的配慮の下に競技を進行する。

2 招集について

- (1) 招集所は、第4ゲート（100mスタート側）に設ける。
- (2) 競技者は、招集開始時刻から招集完了時刻の間、招集場所に待機しアスリートビブスと名前、組などの確認を受けること。また、トラック競技出場者は腰ナンバーを受取り、右腰や後方につけること。
- (3) 使用するスパイクのチェックを受けること。（走高跳は12mm以下、その他は9mm以下の平行ピンとする）
- (4) 競技者は、コールを済ませた後、競技者係の指示に従い競技場所へ移動すること。
- (5) 招集時間は、下記のとおりとする。

競技種目	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	30分前	15分前
フィールド競技	50分前	40分前

- (6) 招集完了時刻に遅れた競技者は、棄権とみなす。
- (7) 棄権する場合は、予め棄権届を招集所に提出すること。

3 アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは、チーム受付（正面玄関）で配布する。（回収はしない。）
- (2) アスリートビブスは、ユニフォームの胸と背中にはっきり見えるようにつけること。
ただし、跳躍競技の競技者は、背または胸のどちらかにつけること。

4 トラック競技

- (1) 本大会は、オールウェザー用のスパイク又はシューズを使用し、素足での競技は禁止する。
- (2) スタートの合図は、英語とする。スタートの形は、クラウチングスタートとする。スターティングブロックは使用しなくても良い。同じ競技者が2回の不正スタートをした時はその競技者を失格とし、オープン参加として走る。
(1・2年生は、クラウチングスタートでスターティングブロック無しで行う。)
- (3) 80mハードルは、高さ・・・70cm 台数・・・9台
距離・・・スタート→1台目 [13m]、ハードル間 [7m]、9台目→フィニッシュ [11m]
失格・・・手で倒す・ハードルから脚(あし)が出た場合。
- (4) 800mでは、第一曲走路の終わりにマークされたブレイクラインの、スタート側により近い端までレーンを走る。競技者はこのブレイクラインから自分のレーンを離れることが許される。

5 フィールド競技

- (1) 走高跳の跳び方は「はさみ跳び」とし、脚が最初にバーを越え、マットへの着地は足裏からとする。
- (2) 走高跳は、自分が申告した高さから試技を開始し、3回続けて失敗した時点で終了とする。
(バーの上げ方について、1 mが練習。1 mから競技を開始する。はじめ5 c mずつ高さを上げ、1 2 5 c m以降は、2 c mずつ高さをあげる。)
- (3) 走幅跳、ジャベリックボール投は全員3回の試技とする。
- (4) ジャベリックボール投の試技の際は、ボール本体を持ち、オーバーハンスローで投げることとする。助走距離は、1 5 m以内とする。(羽だけを持って投げることは禁止する。)

6 コンバインド競技

- (1) 本大会におけるコンバインド競技はそれぞれ次の2種目を行う。競技順序は定めない。
コンバインドA：8 0 mハードル、走高跳
コンバインドB：走幅跳、ジャベリックボール投
- (2) 各種目の得点は『J A A F 小学生混成競技得点表（2 0 2 2年度改訂）』による。
- (3) 8 0 mハードルと走幅跳における風速は得点・順位に影響しない。
(8 0 mハードルは、タイムレース。)
- (4) スタートまたは試技を行い、途中棄権（DNF）、記録無し（NM）、失格（DQ）および参考記録（8 0 mハードルにおいて不正スタートとなりオープン参加時の記録）の場合、得点は0点とする。
- (5) 1種目めに出場し、途中棄権（DNF）、記録無し（NM）、失格（DQ）、参考記録の場合、2種目めの出場は可能とする。
- (6) 1種目めに欠場した（スタートまたは試技を行わない）競技者は、2種目めには出場できない。
- (7) 1種目めまたは2種目めのいずれか、または両方において、途中棄権（DNF）、記録無し（NM）、失格（DQ）、参考記録の場合、2種目の合計得点は、コンバインド得点として認められる。
- (8) 2種目の合計得点で順位を決定する。2人以上の競技者が同じ得点をとった場合は、大会本部で抽選（くじ引き）により全国大会出場者1名を決定する。
- (9) 得点は、男女とも同一の得点表を使用する。

*大分県予選会は、大分県小学生陸上競技連合会にて定めた競技方法とする。

7 リレー競技について

- (1) リレーのオーダー用紙は、招集開始時刻の6 0分前までに招集所に提出すること。
なお、招集規定どおりに行うこと。
- (2) リレーに参加するチームは、原則として同一のユニフォームとする。
ただし、ユニフォームがそろわない場合はハチマキなどで統一していれば認める。

- (3) 5・6年共通男女混合リレーは、全国交流大会の規定により1チーム6名（男女各3名ずつ）連記しているエントリーした選手のみリレーへの出場を可能とする。
- (4) 混合リレーにおけるテイクオーバーゾーンの距離は30mである。テイクオーバーゾーン外から走り出してはならず、ゾーンの中でスタートしなければならない。
- (5) 混合リレーの走順は自由である。

8 ウォーミングアップについて

- (1) 競技前の練習は、競技場内バックストレート外側とバックスタンド裏の練習場を使用してもよい。
- (2) 跳躍競技および投てき競技の場内練習は競技開始時刻の40分前から30分前までに集合して審判員の指示のもとに行うこと。
- (3) 雨天時は、室内練習場を開放する。
- (4) 混雑回避の為、ウォーミングアップへの付き添い者の同行を極力なくすこと。

9 表彰について

- (1) 各種目とも、1位から3位の入賞者に対して表彰を行う。
(盗撮防止の観点から、ユニフォームでの表彰式は認めないので、Tシャツなどを羽織ること。)
- (2) 成績発表後、入賞者は待機場所（102号室）に移動して待機すること。

10 その他

- (1) 該当学年での参加を厳守すること。違反が判明したときは、その競技者を失格とする。
- (2) 競技の結果または競技実施に関する抗議は、その種目のアナウンスの正式発表後30分以内に、審判長に対して口頭で行うことができる。（クラブ・個人登録の代表者が行うこと。）
抗議に対して審判長は速やかに裁定する。裁定を不服として上訴する場合は、上訴申請書に必要事項を記入して預託金10,000円を添えて大会本部に申し出ること。
- (3) 大会後の問い合わせ及び意見などについては、クラブ・個人登録の代表者が行うこと。
- (4) 競技場内及びスタンドは、全て禁煙とする。
- (5) 応急処置を必要とする事故が生じた時は、本大会本部に連絡し処置を受けること。
なお、大会本部としても一括傷害保険に加入しているので、適用を受ける場合は、その旨を大会本部に申し出ること。
- (6) 2020年度に改定し更新させているシューズ規定に関するルール（第143条・競技用靴）の適用外とする。

11 写真・ビデオ等の撮影について

- (1) 盗撮防止のため、望遠レンズ付きカメラによる撮影は、主催者が認めた場合のみ許可をする。競技場正面の受付でADカードを受取り、首にかけて撮影すること。
- (2) ADカードの有無に関わらず不適切な行動や撮影が認められた場合には、大会関係者によりお声掛けする場合がある。

1 1 映像・動画・画像の二次使用について

本大会主催者及び日本陸上競技連盟いずれかが認めた報道機関や大会の協賛・後援の各団体が撮影した大会の映像・動画・画像・記事・個人情報等を、主催者および主催者が認めた第三者が大会運営および宣伝等の目的で、大会ポスター・プログラム・パンフレット・大会報告等への使用、およびテレビ・ラジオ・新聞・雑誌・SNS・ホームページ等の媒体に掲載することがある。

1 2 全国大会への派遣について

全国大会へは、日清食品カップ種目の各種優勝者を推薦する。ただし、優勝者が辞退する場合は次位を順次繰り上げて推薦する。